



都市と地域の人をつなぐ

里都(さと)プロジェクト

第七回・里都づくりフォーラム開催レポート

【開催日:2012年7月11日(水)】

都市と地域の人をつなぐ
里都プロジェクト

「里都(さと)プロジェクト」について

里都(さと)プロジェクトとは、
「都市」と「地域」との新しいつながり方・関わり方を、実践から学び、考えていくプロジェクトです。

「持続可能な幸せを感じる社会づくり」、重要なキーワードだと思います。
この新しい社会づくりのためには、「都市」と「地域」との新しい関係性を模索し、先行事例に学び、育んでいくことが重要ではないかと考えています。

そこで里都(さと)プロジェクトでは、
「様々な地域で、都市と地域をつなぐ活動を行っている方々」と、
「都市に住み、地域との縁をつくりたいと考える方々」との出会いの場をつくり、
お互いが学びあい、双方にとって新しい関係性を培うきっかけづくりに取り組んでいきたいと考えています。

都市生活者



都市と地域をつなぐ活動を行っている方々



地域生活者



【里都プロジェクト】

- ・メンバー: 大木浩士、有福英幸、濱谷玲子、大熊俊之
- ・主な活動内容: ネットワークづくりフォーラムの企画運営、WEBサイト等による情報発信、地域体験ツアーの企画運営、など
- ・WEBサイト: <http://www.satopro.jp/>
- ・お問い合わせメールアドレス: info@satopro.jp

第7回・里都づくりフォーラム 開催概要

■ゲスト： 榎本英剛(えのもと ひでたけ)さん、小田嶋電哲(おだしま でんてつ)さん（神奈川県旧藤野町）

■開催日時： 2012年7月11日(水) 19:00～21:45（開場 18:40）

■開催場所： コクヨ エコライブオフィス品川 5階スタジオ

■参加者： 41名



◎榎本英剛(えのもと ひでたけ)さん

=====
トランジション藤野 設立メンバー
NPO法人トランジション・ジャパン 共同設立者
=====

イギリス在住中の2007年に「市民の自発的な創意工夫による持続可能なまちづくり」を掲げる市民運動、トランジション・タウンに出会う。翌年帰国後に新しく生活の拠点に選んだ藤野でトランジション・タウンの活動始める。



◎小田嶋電哲(おだしま でんてつ)さん

=====
藤野電力エネルギー戦略企画室室長
=====

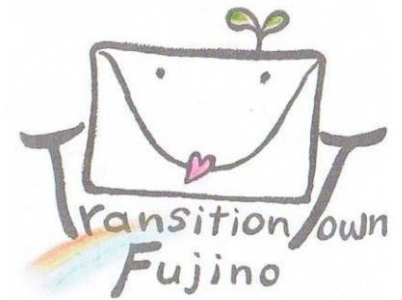
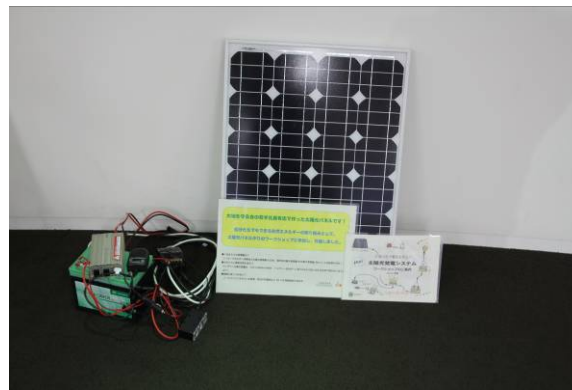
「今、ここから、自分たちにできること」に取り組むべく太陽光発電システムのワークショップの開催、各種イベントへの自然エネルギーによる電力供給など様々な活動を展開。

神奈川県相模原市(旧藤野町)の風景



オープニング

参加者は41名。冒頭、「里都プロジェクト」発起人の大木から、「プロジェクト設立の背景」について説明をさせていただき、自己紹介の時間を設けました。



ゲスト:榎本英剛さんからのお話

第7回フォーラムのゲスト(里都ナビゲーター)、トランジション藤野の榎本英剛(えのもと ひでたけ)さんより、「トランジションタウン」「トランジション藤野」についてのお話をいただきました。



ゲスト:榎本英剛さんからのお話



脱依存

トランジション・タウンとは・・・

「市民が自らの創造力を発揮しながら
地域の底力を高めるための、
実践的な提案活動」



トランジション藤野の活動経緯

- 1年目: 説明会・メンバー募集、定例ミーティング
や単発的なイベントの実施
- 2年目: 地域通貨よろづやの発足による、地域内
のつながりの拡大
- 3年目: 森部や藤野電力など継続的な活動を行う
ワーキング・グループの増加
- 4年目: 他団体との協働、具体的なサービス提供
から雇用の創出へ、内部体制の強化

テーマ別のワーキンググループを形成



森部



地域通貨よろづや



藤野電力



里山長屋



被災地支援



Bar・お茶会



かわら版



イベント出店

ゲスト:榎本英剛さんからのお話



・「トランジション・タウン」は、パーマカルチャー講師のロブ・ホプキンスによって2006年1月から英国南部のトットネスで始まった市民運動です。日本では約4年前から活動が始まりました。

・「トランジション」とは、「移行」や「切り換え」という意味を持つ言葉です。「石油などの持続不可能なエネルギーに過度に依存した社会」から、「地域にもともとある資源を活用した、等身大で持続可能な社会」への移行を志向しています。

・トランジションの大きなキーワードの一つは、「脱依存」です。

・一番大きな「再生可能なエネルギー」は、「市民の創造力」ではないかと思っています。

・「レジリエンス」という言葉もキーワードです。「変化に対して、柔軟に対応できる力」などと訳されます。「自分たちの力で何とかできる範囲を広げていく」ことを、トランジションタウンでは目指しています。

・トランジション・タウンの活動を説明するとき、「市民が自らの創造力を発揮しながら地域の底力を高めるための、実践的な提案活動」と表現しています。大切なのは「実践的な提案」を行うということ。単に「NO」と言うだけではなく、「ではどうしたらいいのか」を実践し、実例を示していきます。

日本におけるトランジション活動



32

関東: 都留、藤野、相模湖、葉山、鎌倉、横浜、高尾、たま、小金井、府中、杉並、世田谷、したまち、京葉、鴨川、桐生、上田

関西: 京都、大阪、尼崎

中部: 浜松、豊橋

中四国: 久米南、さぬき、こまめ、島根

九州: 南阿蘇、福岡、おきなわ、青島

東北: 裏磐梯、うつくしま

・トランジション藤野を立ち上げまず行ったことは、「市民の皆さんと問題意識を共有すること」でした。そのため、映画の上映会や講演会などを行っていました。

・藤野観光協会、まちづくりセンター、シュタイナー学園など、地元の関連団体との連携も促進していきました。

・トランジションの活動がきっかけとなり、藤野では様々なワーキンググループが発足しています。「地域通貨よろづや」「森部」「藤野電力」「お百姓クラブ」など。

・トランジション藤野の基本活動方針は、「誰でも参加できる!」「会費等もなし!(よろづは例外)」「自分でやりたいテーマを出してもよし!」「いくつかのグループ(部?)に参加してもよし!」「やりたい人が、やりたい時に、やりたいことを、やりたいだけやる」です。

・「私たちが自らの想像力を駆使して創造的に考えるなら、石油のない未来は現在よりも、むしろずっと良い社会になるかもしれない」、トランジション・タウンの創設者・ロブ・ホプキンスの言葉です。

参加者同士の対話

「榎本さんのお話を聞いて印象に残ったこと」をテーマに参加者同士の話し合いの時間を設けました。その後の質疑応答で、トランジション藤野への理解が深まり、関心がどんどん高まっていきました。



半年前に藤野に移住した早川さん。勤務先の品川と藤野の間を毎日通勤されています。

ゲスト:小田嶋電哲さんからのお話

今回のもう1人のゲスト、藤野電力の小田嶋電哲(おだじま でんてつ)さんより、「藤野電力の活動」についてお話をいただきました。



ゲスト:小田嶋電哲さんからのお話



- ・私が藤野に移住したのは、2007年12月です。当時は都内の会社で働いていました。
- ・トランジション藤野の活動にはじめて出会ったのは、移住して1年くらい経ったころだと思います。公民館での会合があるとのことだったので、参加してみました。
- ・そこで一番衝撃的だったのは、「今、ここから、できることを、楽しんでやろう」というメッセージでした。
- ・僕はどこかで「この文明は長くは続かない」と思っていました。いつの日か山の中で、自然や動物たちと一緒に暮らしていこうと考えていました。こんなことを考えているのは、自分一人だと思いこんでいました。
- ・しかし、トランジションのメンバーと話してみると、皆さんが同じような問題意識を持っており、その解決策も共感できるものでした。
- ・僕は実際に自分が動いていくのは、「いつか、どこかで」と考えていました。しかしトランジションのメンバーは「今、ここからやろう」そして「楽しんでやろう」と言います。僕は目から鱗が落ちました。何かが変わるのを感じました。

・藤野電力の活動は、大きく4つあります。

①お祭りやイベントへの再生可能エネルギーによる電源供給・・・一番最初に行った実践的活動です。

②再生可能エネルギー発電システム組立てワークショップの開催・・・2011年12月にスタート。現在は月に1回の頻度で開催しています。

③藤野地域の施主さん宅へ再生可能エネルギー発電設備の施工・・・建築士さんからの提案で施工が始まりました。

④市民発電所の建設

・②のワークショップについて・・・藤野電力は自分で電気が作り出せる「ミニ太陽光発電システム」の組み立てワークショップを定期的で開催しています。パネル、バッテリー、インバーターなどの機器を配線でつなげばでき上がり。電気のことにはちょっと苦手というかたでも、実質2～3時間ほどの作業で完成するDIY感覚の手作りキットです。

・参加費は42,800円です。基本的には、「パソコンと照明の電気をまかなう」ことをイメージしキットを設計しています。

・藤野電力の活動は、実践的で泥臭いところからスタートしました。理論よりも「作りたいから作る」という発想で動き始めました。活動を継続していくと、少しずつ仲間が増えていきました。様々な専門分野を持った方が、様々な立ち位置で参加するようになりました。この多様さが、藤野電力の力になっていると思います。

ゲスト:小田嶋電哲さんからのお話



ワークショップのご紹介。協力:「大地を守る会」



質疑応答と参加者同士の対話

小田嶋さん、榎本さんに対する質疑応答の時間をもち、最後に参加者同士で感想の共有を行いました。



エンディング



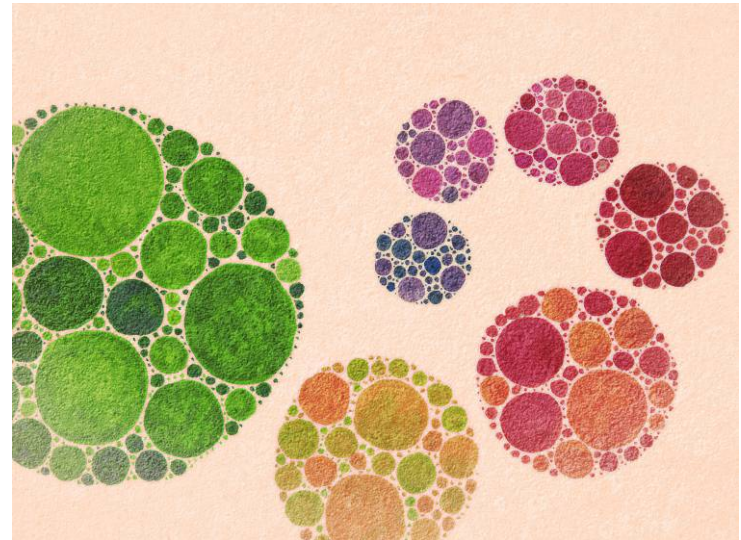
今回のお土産は、「藤野のスコーン」



会場のご協力をいただいた、コクヨの八塚さんからのお話



ゲストのお二人からのエンディングメッセージ



8/3、4、5に、藤野の旧牧郷小学校にて「ひかり祭り」が開催！